

福島第一原子力発電所の状況

平成 24 年 11 月 12 日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (11/12 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*	原子炉格納容器 水素濃度	
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	29.9	106.1 kPa abs	A系： 0.83	vol %
		給水系：約 3.0 m ³ /h			B系： 0.83	vol %
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.5 m ³ /h	42.6	7.26 kPa g	A系： 0.06	vol %
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.05	vol %
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 4.3 m ³ /h	42.1	0.23 kPa g	A系： 0.19	vol %
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.18	vol %

*絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

【1号機】・11/12 9:44 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.7m³/hから約 3.0m³/hに調整。炉心スプレイ系からの注水量は約 2.0m³/hで継続。

【2号機】・11/12 9:44 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.3m³/hから約 4.5m³/hに調整。

【3号機】・11/11 17:20 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8m³/hから約 2.0m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 4.3m³/hから約 4.5m³/hに調整。

<2. 使用済燃料プールの状況> (11/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	20.0
2号機	循環冷却システム	運転中	19.7
3号機	循環冷却システム	運転中	21.0
4号機	循環冷却システム	運転中	28

*各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドラジンの注入を適宜実施。

【3号機】・11/6 9:53 使用済燃料プール代替冷却システムにおいて、燃料プール内瓦礫撤去の事前調査として、当該冷却系停止時の燃料プール内視認性(透明度)変化を確認するため、同システムを停止(冷却停止時プール水温度:17.5℃)。

11/9 16:33 視認性確認作業が終了したことから、同システムを起動(冷却再開時プール水温度:25.4℃)。また、起動後のパトロールにおいて、屋外の2次冷却系上部散水槽より2次系の水を冷却するためのろ過水が外へ連続滴下していることを 17:00 頃、パトロール中の当社社員が確認。現場を確認したところ、散水用の穴が目詰まりしていたことから、穴の清掃を行い、外への滴下が停止し順調に運転されていることを確認。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	11/11 10:05 ~ 移送実施中
3号機	3号機 タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設(プロセス主建屋)	11/8 12:31 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (11/12 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

<5. その他>

- ・H23/10/7～ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。
- ・H24/2/23～ 6号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/3/6 ～ 5号機サブドレン水について、一時保管タンクを経由した、仮設タンクへの汲み上げ試験を実施中。
- ・H24/4/25～ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。
- ・H24/10/23～ 1号機サプレッションチェンバ内への窒素ガス連続封入を開始。サプレッションチェンバ内の水素濃度を推定2%程度まで低くするために、連続封入期間は1ヶ月程度を予定。

以 上